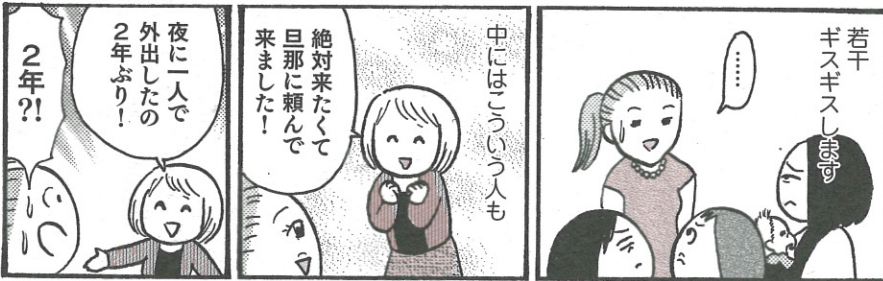
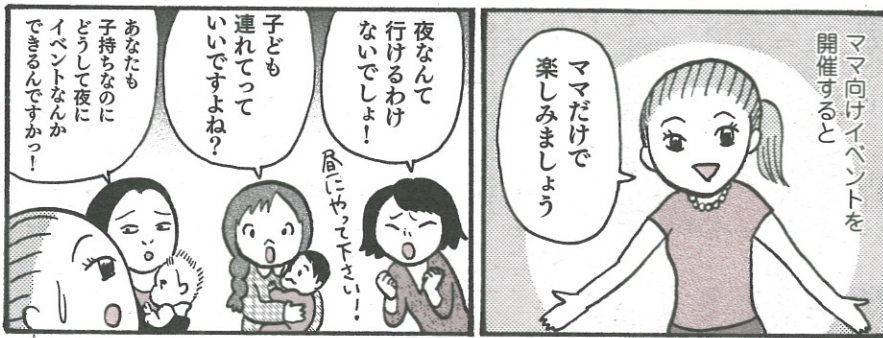


# 現代に子どもを育てる親たちはワガママでしようか？

## 子育てを阻む「言論」の壁

「出産したら会社を辞めなさい」  
「泣く子には睡眠薬を飲ませろ」  
子育て世代には時に、  
厳しい言葉も向けられる。  
溝を埋めることはできるのか。

編集部 小林明子 漫画 田房永子



警備会社のステッカーが貼られた瀟洒な邸宅の壁面に、黄色の垂れ幕がかかっている。  
〈保育園建設 反対〉  
〈税金のムダ遣い!!〉  
東京都品川区の池田山は、JR五反田駅から歩いて5分ほどの高台にある高級住宅街だ。皇后美智子さまの生家・正田邸跡地にほど近い一角に認可保育園の建設計画が持ち上がったのは昨年夏。約300坪の土地に3

階建ての園舎を着工し、2015年度に定員90人の園が開設される予定だ。  
計画しているのは、全国に約20の保育園を運営している兵庫県の社会福祉法人「夢工房」。数カ所の候補地の中から、区と協議して決めた。黒石誠理事長は、初めて経験する反対運動に困惑する。  
「ビル内の園が増えている中、ここは園庭が確保できる理想的な土地で、地域に根ざした保育ができると考えたのですが」  
住民の「夢工房池田山保育所に反対する会」は今年2月、約1700人分の署名と要望書を都と区に提出した。朝夕に送迎の自転車が行き交うと、ペットを散歩させる高齢者が危険にさらされる。夜遅くまで

開園すれば照明や騒音で睡眠を妨げられる。そもそも池田山は高齢者が多いが乳幼児は少なく、保育園のニーズはない。  
「反対する会」の代表、デザイナー会社社長の船曳鴻紅さん(66)はこう話す。  
「住民エゴだという人もいるが、私たちはこの閑静な環境のために高額な固定資産税や相続税を納めている。反対者の3分の2は女性です。子育ての苦勞を想像できるし応援したいからこそ、なぜここに保育園をつくるのか理解に苦しみます。もしも災害が起きたら高齢者の避難に手一杯で、子どもまで助けられない。無責任に受け入れることはできません」  
品川区では14年度、認可保育園の1次選考に申し込んだ2532人のうち894人が選考に漏れ、集団異議申し立てもあった。20カ所以上の保育園を見学した会社員の女性(41)の長女(1)は認可に入らず認証保育所に決まったが、3歳になる前にまた預け先を探さなければならぬ。  
「早く保育園を増やしてもらいたいのに、反対運動で水を差されるなんて」  
長男(1)が認可に入れなかったフリーランスの女性(39)には不安もある。

## 貴誌掲載の不正確な記事内容について

朝日新聞出版 アエラ編集長 浜田敬子様

アエラ 4月 14日号 17頁「現代に子どもを育てる親たちはワガママでしょうか？」の中で、冒頭のほぼ1頁にわたって、私も関わっています「夢工房池田山保育所計画に反対する会」に関する記事が掲載されました。その記事内容、特に赤字で強調されている箇所が、甚だ不正確かつ不適切と考え、以下の点について指摘させていただきます。

### 一、黄色の垂れ幕にある文言について

添付の写真をご覧ください。最初の写真が黄色の垂れ幕とされるものです。また他の垂れ幕の写真も参考に添えました。これらの垂れ幕を見て、何故に＜保育園建設反対＞  
＜税金のムダ遣い！！＞の文言のみが、ここから切り取られるのでしょうか。通常の判断力のある方であれば、これは一般的に保育園建設に反対しているのではなく、夢工房の保育園計画に反対しているのだと理解するはずです。

### 二、要望書の内容について

区長、都知事への要望書には「1日4回の送迎の時間帯は、自転車、ベビーカー、車、通勤の人たち、散歩の人たち（ペット連れ含む）が、これらの坂道を行き交うこととなります」とあります。それを「ペットを散歩させる高齢者が危険にさらされる」と書くのは誤りです。

次に「池田山は高齢者が多いが乳幼児は少なく保育園のニーズはない」は、要望書では「地域のニーズに反する定員96名という大規模保育所」となっており、不正確です。ところで地域ニーズに反するとは私たちの憶測ですが、品川区は何ら池田山界隈の待機児童数などの実態調査をしていないため、知る術がないからでした。それは夢工房の黒石理事長自身が認めているところです。

### 三、括弧書きの私の発言について

まず第一に、私は「デザイン会社社長」ではありません。

次に「住民エゴだという人もいるが」は、私がおのち「住民エゴという言葉は本来使うべきではない。それはエゴと罵って相手方の言論を封じる手法だ」と続けたのを、記者はまったく無視されています。

さらに「私たちはこの閑静な環境のために高額な固定資産税や相続税を納めている」のくだりは、要望書中の「固定資産税、相続税が一段と高く設定されている土地でありながら、その「閑静さ」を奪う保育所事業が、都・区によって認可される」を引用しているものと思われます。しかし私が申しあげたのは、「反対する人の9割が消費税について納得したい、国のあり方としておかしいという意識だ」です。

そして最後の「高齢者の避難に手一杯で、子どもまで助けられない。無責任に受け入れることはできません」の箇所は、私個人として許すことができません。夢工房経営

の保育所では、保育士は生活経験の浅い 20 代の方がほとんどです。人数も限られるその方達だけで、はたして乳幼児を守りきることができるでしょうか。当然近隣住民の手助けが必要となるはずです。そのときのためにどのような対策を考えるのか、夢工房も品川区も何も示さないまま、認可保育所として開園するのは無責任だと私は申しあげたはずです。

以上のように、私の言葉はことごとく組み替えられ、独自のストーリーとなっています。取材された小林明子氏は、今回の取材は子育て特集記事の一部になるのかどうか分からないが、そうなる時は連絡しますと言って帰られました。しかしその後なんのご連絡もなく、池田山に関することは書かれなかったものと思っておりました。週刊誌は新聞と違い一刻を争っての入稿状況ではないはずですが。ましてや今回の取材は一ヶ月近く前に行われました。従って何故に、私に職業でさえも確認されなかったかをご説明下さい。私個人だけでなく、夢工房への反対活動を共にされる方々にも、中傷が及ぶ可能性があります。また今更のごとく曾野綾子氏の寄稿文を持ち出して、意図的に高齢者対子育てママの対立を煽ったのだとしたら犯罪的です。

現実には、関連投稿サイトの中でヘイトスピーチともとれるコメントが数多く見られたり、池田山町会内の夢工房推進派の方に記事が悪用されるような状況が出来しています。

<http://dot.asahi.com/aera/2014041400034.html>

投稿者

「これほどまで老醜という言葉がピッタリな連中が居るだろうか。

この老人達が要介護になったとき、誰がその介護をしてくれるんだろうか。ペットの散歩ぐらいしかやることなく、何ら社会に対して生産性のあることをしない老人に対して税金を払うほうが余程無駄遣いではないか。後の世代にツケばかり回して、その上こんな身勝手な言い分をしているようじゃあ、今の老人はちっとも尊敬などできない。この老人たちは、何のために消費税率が上げられたかを理解しているのか。現役世代にとっては本当に大きなツケになった。このような老人たちは社会にとってこれ以上ないお荷物だ。自分たちさえ良ければそれで良いという考えをするようでは社会の癌だ。この社会は今の老人たちに贅沢な暮らしを保証するためにあるのではない。ツケを払ってから死んで欲しいものだ。」

このたびの夢工房保育所計画反対運動は、夢工房の高額な不動産投資に対して、誰もが不審に思うことから始まりました。10 億円(推定)の土地に 4 億円以上(推定)かけて建物を建てるのであれば、その前に保育士の方々の給与を上げるべきです。今、決定的に足りないゼロ歳から 2 歳までの乳幼児の保育のためには、同じ予算で交通至便な場所にもっと多くの保育施設を設けるべきではないでしょうか。

この運動を中心に担っているのは女性たちです。しかも主婦専業ではなく自ら職業を持ち、中には小児科医の方、保育士だった方もおられます。私は 4 人の子育てを終えた後、仕事を始めましたが、他の多くの方々は家庭と仕事の両立で苦労されてきた方たちです。だからこそ、今回の夢工房の保育所計画に対して、立地からしても豪華な園舎からしても、これはおかしい、と気づかれたのだと思います。



私たちは、現在起こっている、保育所に預けられる人と預けられない人との格差、それによる受益の不公平、低賃金による保育士不足、公立保育所のリストラによる民間移管、社会福祉法人の内部留保金（夢工房は純利益が毎年 14%以上）の問題として提起しているのです。例えば区は、ゼロ歳児であれば月額 40 万円を認可保育所に補助しますが、都の認証保育所であればもっと低くなります。ましてや無認可であればゼロです。また子育て支援に、政府が消費税アップでさらに充てようとする 4000 億円が、このような施設費と社会福祉法人の蓄財に消えていくのであれば、アベノミクスには貢献するかもしれませんが、決して日本の保育の未来は保証されません。

北欧では、地元住民の創意でつくられる保育所がたくさんあります。自分たちの地域の福祉財源をどのように使えば理想の保育に近づくか、住民自身がしっかりと考えています。御上任せではないのです。保育士の給与水準も高く、日本のように 20 代の女性ばかりというゆがみはありません。もっと智慧を生かすことで、より多くの子育てママの支援をしなければいけないと私たちは思います。一部の人だけが宝くじに偶然あたったようなことで良いのでしょうか。こういった思いを、私は小林記者にお伝えしています。

いずれにしましても、私およびこの運動を共に支えて下さっている方々に、中傷による被害や妨害が及ぶようなことがありましたら、法的な手段を講じることも考えさせていただきます。そのような不幸な事態になることを防ぐためにも、貴誌編集部としての見解と説明、また適切でなかったと判断された場合には、どのようにそれを公開していただけるか、文書による回答を私にいただきたく思います。  
今月末までにご回答ください、よろしくお願い致します。

平成 26 年 4 月 24 日

東京都品川区東五反田 5-14-5

船曳 鴻紅

添付参考書類

1. 区長及び都知事への要望書
2. 池田山内垂れ幕写真
3. 夢工房保育所計画図